

平成28年度進行管理・評価シート
佐川町歴史的風致維持向上計画（平成20年3月11日認定）
（最終変更平成26年3月31日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	
1 庁内会議及び佐川町歴史的風致維持向上計画協議会の開催・・・	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	
1 施策との連携による今後の措置	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)	
1 まちの駅活性化事業(協議会活動助成事業)	3
2 牧野公園整備事業	4
3 標識整備事業	5
4 竹村分家旧竹村呉服店修復・保存事業	6
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	
1 文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について・・・	7
2 文化財の保存及び活用の普及・啓発について	8
3 文化財の防災について	9
4 埋蔵文化財の取扱いについて	10
5 文化財の修理について	11
文化財の保存・活用をおこなうための施設について	11
文化財の周辺環境の保全について	11
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	
1 風土生かし町づくりを	12
2 家老・深尾家の屋敷再現	12
3 中学生が山野草育成 牧野公園充実に一役	12
4 佐川町青山文庫 水野龍らの資料展示	12
5 「酒蔵の道」江戸の風情	13
6 維新博へ歴史資源磨け	13
7 佐川の旧商家 雑貨店に 歴史的町並みに新名所	13
8 旧商家 寄贈者に謝意 佐川町 改修内容を報告	13
9 白壁 影絵で彩る 佐川町で19日「酒蔵ロード劇場」	14
10 佐川の「誇り」映像に 中3有志7人 名所紹介	14
11 辛口の伝統磨き勝負 司牡丹(佐川町)など海外へ	14

□総括評価シート【方針の達成状況等】(様式2) ※進捗評価のみの場合は削除(様式3も同様)

①計画に記載している方針(様式2-1)	
1 住民参加による歴史的風致の維持向上	1
2 文化資源の包括的な活用による歴史的風致の維持向上	2
3 教育・産業等との連携による歴史的風致の維持向上	3
4 さらなる歴史的・文化的資源の発掘による歴史的風致の維持向上	4
5 制度面の整備による歴史的風致の維持向上	5

□総括評価シート【代表的な事業の質の評価】(様式3)

①歴史的風致維持向上施設の整備・管理(様式3-1)	
1 竹村分家旧竹村呉服店修復・保存事業	1
2 牧野公園整備事業	2

□法定協議会等におけるコメントシート(様式4)

1

評価軸①-1
組織体制

	評価対象年度	平成28年度
項目	現在の状況	
庁内会議及び佐川町歴史的風致維持向上計画協議会の開催	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容 佐川町歴史的風致維持向上計画を円滑かつ着実に遂行するために、計画推進体制(事務局と審議組織との連携)を強化し、歴史的風致維持向上計画協議会の活動をサポートしていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

庁内会議(チーム佐川推進課・産業建設課・教育委員会事務局)を密にして、歴史的風致維持向上計画協議会のサポート体制を強化するために、平成28年度より毎月定例会を実施することにした。原則的に毎月第3木曜日を定例会の日と決め、その折々の事業の進捗状況、課題を協議し合った。庁内会議は年間12回、同協議会は2回開催した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	庁内会議の定例会を開催することで、歴史まちづくり事業についての現状や課題の共有をすることができたと共に、3部署の職員の連携が更に高まった。歴史的風致維持向上計画協議会は、以前に比して議論が活発になってきたと感じるが、委員により歴史まちづくり事業に対しての温度差があるところがあり、同協議会全体の認識を高めていくことが課題である。

状況を示す写真や資料等



庁内会議の様相

庁内会議

平成28年4月4日	平成28年9月20日
平成28年4月12日	平成28年10月13日
平成28年6月16日	平成28年10月20日
平成28年6月22日	平成28年11月17日
平成28年7月21日	平成29年1月19日
平成28年8月18日	平成29年3月16日



第1回協議会の様相



佐川町歴史的風致維持向上計画協議会

- 第1回(平成28年6月28日)
- ◇報告事項
 - ・旧竹村呉服店耐震改修工事
 - ・牧野公園道路改良工事
 - ・街なみ環境整備事業協議会活動
 - ・歴まち進行管理・評価シート
 - ・歴まち事業
 - ◇協議事項
 - ・旧竹村呉服店の活用
 - ・文化財保護の概要
- 第2回(平成29年3月29日)
- ◇報告事項
 - ・歴まち事業の進捗状況
 - ◇協議事項
 - ・歴史的風致形成建造物の指定
 - ・景観計画の策定

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

		評価対象年度	28年度
項目		現在の状況	
施策との連携による今後の措置		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	街なみ景観条例は、平成5年度から10年間実施した街なみ環境整備事業に対応して策定したものであり、歴史的風致維持向上計画に合致した内容となっていないという問題点がある。そのため、今後においては、景観法に基づく景観計画及び景観条例の策定をめざすことにより、歴史的風致に合致した街なみ景観の維持向上を図ることとする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成29年度予算に「景観計画の策定」費用を計上し、現在、庁内会議(チーム佐川推進課・産業建設課・教育委員会事務局)において、計画の内容、方向性及び分担を煮詰めている段階である。庁内会議の協議では、規制が伴う計画であることから、対象地域の住民の合意を得て進めて行くには、計画策定には2~3年のスパンをかける必要があるとの意見で一致している。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		住民に一定の規制が掛かることから、合意形成を図るために、ねばり強く話し合いを持つ必要がある。	
状況を示す写真や資料等			
Empty space for photos and materials			

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成28年度 現在の状況
牧野公園整備事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成21年度～平成30年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 牧野富太郎博士の顕彰を図るために、牧野公園に遊歩道の整備と博士由来または縁の深い植物並びに秋期も楽しめる紅葉樹を植栽し、憩いと学習の場として公共公益施設の高質化を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成26年度に公園内通路の舗装及び排水計画について詳細設計を実施し、改良工事に着手した。工事については、平成26年度の着手から3期工事となり、平成28年度に事業完了となった。

進捗状況 ※計画年次との対応

計画どおり進捗している
 計画どおり進捗していない

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

牧野博士に由来する植物の植栽や雨天時の利用者の安全確保の観点から、植物の生育環境の配慮や降雨時に利用しやすい公園にするため、整備には雨水対策が必要となった。その対策を検討し、遊歩道の舗装整備に反映する。

状況を示す写真や資料等



降雨時には川のように雨水が遊歩道を流れている



工事完了箇所

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成28年度
項目		現在の状況	
標識整備事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成25年度～30年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	国道33号及びJR佐川駅から重点区域への誘導を円滑にするとともに、歴史的風致の啓発に資するために、各所に標識及び説明板を設置する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
歴史的風致地区における著名地点標識や施設案内板の設置(計10基)が平成28年度に完了した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	設置場所・工法等の未決事項について、関係者協議の必要がある。事業期間を平成28年度に延長し、道路管理者及び隣接地権者を含めた関係者協議を進め、早期の事業着手・完了を目指す。		

状況を示す写真や資料等



標識及び説明板の設置状況

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成28年度
項目		現在の状況	
竹村分家旧竹村呉服店修復・保存事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成27年度～28年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	竹村分家旧竹村呉服店の修復及び保存をおこなうことで、佐川町の歴史的まちなみを構成する重要な歴史的建造物として一般公開を図る。		

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成27年度に耐震改修設計及び改修工事に着手し、平成28年度に工事完了となった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	改修後の利用計画について、関係者協議を行う必要がある。

状況を示す写真や資料等



竹村分家旧竹村呉服店



改修工事完了

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成28年度
文化財の保存・活用について 文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について		現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 現在、文化財の保存活用に携わる団体は積極的かつ地道な活動を展開しており、まちづくり行政等との連携も十分とれている。
今後も、こうした活動の前進を更に目指し、行政との連携も一層強化する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

重点区域内に移築された名教館では、佐川が輩出した偉人のパネルを展示し、文教の町佐川をPRした。また、歴史学講座、高知大学出前公開講座等を開催し、文化財の活用に努めた。佐川高校地域学習では上町地区を歩き、観光ボランティアから学習し、文化財等についての知識を深めた。国の登録有形文化財建造物に登録された旧浜口家住宅では、苔玉作りや生け花と抹茶のおもてなし等多様なイベントが開催された。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	NPO法人、観光協会は定期的にイベントを開催しており、集客数は増加傾向である。また観光ボランティアの養成講座で仁淀川流域の歴史・文化財等を学ぶ機会を設けた。今後も観光ボランティア、観光協会と連携し、活発な情報配信と文化財の活用を図りたい。
--	---

状況を示す写真や資料等



佐川高校地域学習 町並み模型見学
平成28年4月28日 (50名)



子ども論語教室 名教館
平成28年4月～12月 (延べ61名参加)



▲平成28年度高知大学出前公開講座 名教館
平成28年9月8日～10月13日 (5回延べ118名)



▲浜口さんちの秋祭り 旧浜口家住宅
H28.10.17～10.19 (延べ344名)

項目	評価対象年度	平成28年度
文化財の保存及び活用の普及・啓発について		現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 文化財の価値を町民がより理解し、保存や活用の意識を高めるため、学校教育では町独自の文化財教育・文化財見学会を実施し、社会教育等では文化財や町の歴史に関する教室の開催、分かりやすいパンフレットの作成による啓発活動などを行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

黒岩小学校で卒業生(高校生)も含めて、「太刀踊り子ども教室」を開催し、高知県の無形文化財である「佐川の太刀踊り」の継承に取り組んだ。他にも斗賀野小学校児童による花取踊り(町指定無形文化財)や黒岩中学校で瑞応の盆踊り(県指定無形文化財)に児童・生徒が取り組み、地域の行事などを通じて成果を披露し、地域の伝統芸能としての位置づけを高めた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

児童生徒が積極的に参加し、無形文化財の継承に取り組んではいるが、発表の場は地域の行事に限られている。今後は、町内での伝統芸能発表会の開催や、町外のイベント等への参加を検討する必要がある。

状況を示す写真や資料等



← 「四ッ白太刀踊り」 県指定無形文化財

黒岩地区の小中高生が積極的に参加し継承に取り組んでいる。

11月3日の仁井田神社の秋の大祭に参加し、小中学校の運動会や黒岩で開催される短縮マラソン大会でも披露している。



← 「白倉神社花取踊り」 町指定無形文化財

斗賀野地区の小中学生が積極的に参加し継承に取り組んでいる。

11月12日の白倉神社の秋の大祭で披露している。



← 「瑞応の盆踊り」 県指定無形文化財

黒岩瑞応地区が中心となり、瑞応盆踊りを継承していくため、中学生の指導にあっている。

今年度は450年祭にあたり、記念碑を設置し、地域外の踊り子隊との交流を図った。

8月16日は、夏休みで夜間のため、中学生は個人

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	平成28年度
項目		現在の状況	

文化財の防災について

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容

現在も実施している所有者、地域住民、消防署、地区消防団が一体となった防火訓練もさらに質量ともに充実したものとしていく。加えて、「文化財防火デー」には、上記住民・団体及び文化財保護審議会委員等が各地区の文化財における消火訓練を実施しており、今後も継続していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

重点区域内には自主防災組織が設立されており、地域の防災についての意識も高い。文化財防火デー(1月26日)には、加茂地区で文化財を対象に消防署、消防団とともに初期消火訓練を実施し防火意識の向上を図った。
また、文化財巡視パトロールなど、あらゆる機会を通じて、引き続き文化財の保存や防災の大切さについて関係者などに周知を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

南海地震の発生が予測されていることもあって、地域住民の防災について一定理解が高まっているが、今後も、引き続き、各地区を回り、防災意識の啓発及び文化財に対する理解を深めてもらう活動を続けていく必要があると思われる。

状況を示す写真や資料等



▲1月26日 文化財防火デー 加茂地区賀茂神社において火災発生を想定し、初期消火訓練及び通報訓練等を実施した。



▲ 1月26日 文化財防火デーの防火訓練には地域住民、保育士及び保育園児、地元消防団、消防署、文化財保護審議員が参加し、消防署員の指導のもと、地域住民による消火器での初期消火訓練、消防署へ模擬通報、地元消防団による放水訓練が行われた。

また、実地訓練終了後には、文化財保護審議会委員長より、文化財保護の重要性を説明し、参加者は熱心に耳を傾けた。

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成28年度
	現在の状況	
埋蔵文化財の取り扱いについて	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容 機会あるごとに埋蔵文化財の持つ意義や重要性及び所在地を町広報やその他の方法により広く住民に周知する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

町内の主要な埋蔵文化財については、年1回、2日にわたり巡視パトロールを行い保存状態を確認している。また重点区域内の佐川城跡については、平成28年10月12日に文化財保護審議会委員(巡視員)とともにパトロールを実施し、昨年度の写真の比較や、目視により保存状態に変化はないことを確認している。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

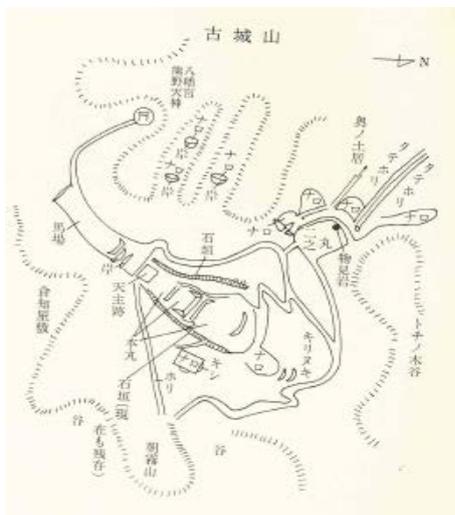
計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

現在のところ埋蔵文化財について広く住民に周知するには至っていない。今後は町HPへの掲載や、住民向けの現地説明会等周知方法について検討したい。

状況を示す写真や資料等



◀ 石積み部分には今のところ異常はみられないが、周辺の雑木による悪影響が発生しないよう伐採を順次、予定している。



◀ 佐川城址見取(昭和56年佐川町発行「わが町の文化財と旧跡」より転載)

評価軸④-5

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成28年度
	現在の状況	
文化財の修理について 文化財の保存・活用を行うための施設について 文化財の周辺環境の保全について	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容 文化財の修理及び整備については、定期的な清掃及び点検確認を行い、文化財巡視員による定期的なパトロールを実施する。文化財の保存・活用を行うための施設は、財政状況との調整を図り、施設の改善計画を立て課題解消に向けて具体的に着手する。文化財の周辺環境の保全については、まちづくり行政と文化財行政がより連携を強化し、文化財の周辺環境の保全を図っていくこととする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

「旧浜口家住宅」、「名教館」、「佐川文庫庫舎(旧青山文庫)」は、さかわ観光協会を指定管理者とし良好な状態で管理されている。また、重点区域内の文化財の周辺環境は、地域住民やNPO法人くろがねの会、NPO法人さかわ観光協会により良好に保全されている。なお、重点区域内における本年度の文化財の巡視結果において、緊急に修理の必要が生じたものはなく、良好な状態を保っている。「旧竹村家具服店」は、平成26年度～平成28年度で修復。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

現在のところ、町立施設は概ね良好な保存状態であるが、今後においては、重点区域内に現存する歴史的建造物について大規模な修繕等が生じると予測される。引き続き支援策等を検討していきたい。

状況を示す写真や資料等



▲ さかわ観光協会が管理する「佐川文庫庫舎」



▲ さかわ観光協会が管理する「名教館」



▲ 修復後の「竹村分家旧竹村呉服店」(国登録有形文化財(建造物)に申



▲ さかわ観光協会の事務所がある「旧浜口家住宅」



▲ 重点区域の文化財周辺の環境は良好に保全されている

評価軸⑤-1
効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
風土生かし町づくりを	平成28年5月11日	高知新聞
家老・深尾家の屋敷再現	平成28年5月30日	高知新聞
中学生が山野草育成 牧野公園充実に一役	平成28年6月7日	高知新聞
佐川町青山文庫 水野龍らの資料展示	平成28年6月16日	高知新聞

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

本年度は地元新聞に10回、全国紙に1回、佐川町の歴史まちづくり関連の記事が掲載された。特徴的なのは、例えば子供、住民団体、個人、企業などの様々な取り組みが取り上げられたことだ。このことは、歴町さかわの意識が住民の中に徐々に醸成されていることの表れではないだろうか。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	住民主導、住民発案の取り組みがもっともっと活発になるように、行政も支援していかねばならない。

状況を示す写真や資料等

家老・深尾家の屋敷再現
計29棟 畳10畳分の大作
栗田さん(町) 3年半がかり
「佐川町」の歴史まちづくりの中心となる「家老・深尾家の屋敷再現」プロジェクトが、今年5月30日(土)に高知新聞に掲載された。このプロジェクトは、佐川町の歴史を伝えるために、家老・深尾家の屋敷を再現する。栗田さんは、このプロジェクトの中心人物として、3年半がかりでこの大作を実現させた。

風土生かし町づくりを
佐川町 水野龍らの資料展示
「佐川町」の歴史まちづくりの中心となる「家老・深尾家の屋敷再現」プロジェクトが、今年5月30日(土)に高知新聞に掲載された。このプロジェクトは、佐川町の歴史を伝えるために、家老・深尾家の屋敷を再現する。栗田さんは、このプロジェクトの中心人物として、3年半がかりでこの大作を実現させた。

中学生が山野草育成
佐川町 牧野公園充実に一役
「佐川町」の歴史まちづくりの中心となる「家老・深尾家の屋敷再現」プロジェクトが、今年5月30日(土)に高知新聞に掲載された。このプロジェクトは、佐川町の歴史を伝えるために、家老・深尾家の屋敷を再現する。栗田さんは、このプロジェクトの中心人物として、3年半がかりでこの大作を実現させた。

佐川町 牧野公園充実に一役
「佐川町」の歴史まちづくりの中心となる「家老・深尾家の屋敷再現」プロジェクトが、今年5月30日(土)に高知新聞に掲載された。このプロジェクトは、佐川町の歴史を伝えるために、家老・深尾家の屋敷を再現する。栗田さんは、このプロジェクトの中心人物として、3年半がかりでこの大作を実現させた。

評価軸⑤-1
効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
「酒蔵の道」江戸の風情	平成28年7月31日	読売新聞
維新博へ歴史資源磨け	平成28年9月6日	高知新聞
佐川の旧商家 雑貨店に 歴史的町並みに新名所	平成28年10月17日	高知新聞
旧商家 寄贈者に謝意 佐川町 改修内容を報告	平成28年10月27日	高知新聞

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり
■計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

佐川の旧商家 雑貨店に



江戸後期建築町が改修

「古い建物の雰囲気も味わって買い物をしてもらえれば」と店主高橋美穂さん。(写真は佐川町甲)

歴史的町並みに新名所

「古い建物の雰囲気も味わって買い物をしてもらえれば」と店主高橋美穂さん。(写真は佐川町甲)

佐川町甲の歴史的町並みに、江戸後期建築の町家が改修され、新たな名所として生まれ変わった。店主高橋美穂さんは、「古い建物の雰囲気も味わって買い物をしてもらえれば」と語り、訪れる人々に歓迎の意を示している。



「竹村呉服店」を寄贈した竹村京子さん＝右から2人目＝に感謝の意を示す記念品が贈られた(佐川町甲)

9年に町が定めた「歴史的風致維持向上計画」で整備対象となつた。13年10月、竹村さんが町に寄付を申し入れた。翌年に土地と建物がお披露目され、譲渡が行われた。NPO高知文化財研究所の溝淵博彦代表が、建物の歴史的価値などを説明し、幕末の部材が残壁や、椅子状のなまこ活字化に役立つて活用して、竹村さんは「修復工事で建物の良さを生かしてもうけた。県外からも多くの人を訪れてほしい」と期待していた。

旧商家 寄贈者に謝意

佐川町 改修内容を報告

高知新聞 10月27日

高知市佐川町甲の歴史的町並みに、江戸後期建築の町家が改修され、新たな名所として生まれ変わった。店主高橋美穂さんは、「古い建物の雰囲気も味わって買い物をしてもらえれば」と語り、訪れる人々に歓迎の意を示している。

「酒蔵の道」江戸の風情

17年3月開幕

「酒蔵の道」江戸の風情。17年3月開幕。佐川町の歴史的町並みに、江戸後期建築の町家が改修され、新たな名所として生まれ変わった。店主高橋美穂さんは、「古い建物の雰囲気も味わって買い物をしてもらえれば」と語り、訪れる人々に歓迎の意を示している。



佐川町

名産巡礼

私は植物の愛人として生まれ来た
あるいは母木の精かも知れん

維新博へ歴史資源磨け

青山文庫(株)など準備本格化

高知新聞 10月17日

高知市佐川町甲の歴史的町並みに、江戸後期建築の町家が改修され、新たな名所として生まれ変わった。店主高橋美穂さんは、「古い建物の雰囲気も味わって買い物をしてもらえれば」と語り、訪れる人々に歓迎の意を示している。



青山文庫(株)など準備本格化。高知市佐川町甲の歴史的町並みに、江戸後期建築の町家が改修され、新たな名所として生まれ変わった。店主高橋美穂さんは、「古い建物の雰囲気も味わって買い物をしてもらえれば」と語り、訪れる人々に歓迎の意を示している。

評価軸⑤-1
効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
白壁 影絵で彩る 佐川町で19日「酒蔵ロード劇場」	平成28年11月17日	高知新聞
佐川の「誇り」映像に 中3有志7人 名所紹介	平成28年11月19日	高知新聞
辛口の伝統磨き勝負 司牡丹(佐川町)など海外へ	平成28年12月20日	高知新聞

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	

状況を示す写真や資料等

辛口の伝統磨き勝負

2016年は県内の地酒の評価が高まる年になった。7月に東京で開かれた市販されている日本酒の品評会「第5回サケ コンペティション」で、高知市佐川町の司牡丹酒造が純米大吟醸部門で2位に入るなど県内の酒蔵の9銘柄が入賞した。入賞数は前年の3倍になった。全国的に甘口が好まれる傾向がある中、「土佐酒」の特徴である辛口を守りながら海外へ販路を広げるなど、関係者は国内外で辛口酒PRを積極的に行っている。(佐川支所・吉川博之) = 1面参照

広がれ土佐酒の魅力

「辛口酒は、昔ながらの酒造り技術で造られる。味は、甘口よりも辛口で、口当たりが爽やかで、喉越しが良い。また、辛口酒は、健康にも良いとされている。県内外で辛口酒のPRを積極的に行っている。関係者は国内外で辛口酒のPRを積極的に行っている。」



ニューヨークの高級寿司店で提供される「辛口」は評価が高い(写真はいずれも佐川支所)

司牡丹(佐川町)など海外へ

「辛口酒は、昔ながらの酒造り技術で造られる。味は、甘口よりも辛口で、口当たりが爽やかで、喉越しが良い。また、辛口酒は、健康にも良いとされている。県内外で辛口酒のPRを積極的に行っている。関係者は国内外で辛口酒のPRを積極的に行っている。」



「辛口酒は、昔ながらの酒造り技術で造られる。味は、甘口よりも辛口で、口当たりが爽やかで、喉越しが良い。また、辛口酒は、健康にも良いとされている。県内外で辛口酒のPRを積極的に行っている。関係者は国内外で辛口酒のPRを積極的に行っている。」

佐川の「誇り」映像に

「佐川」の歴史や文化を伝える映像が、県内外で放映されている。映像には、佐川の歴史や文化、そして酒造りの歴史などが紹介されている。関係者は、映像を通じて佐川の魅力を広く伝えることを目指している。

中3有志7人名所紹介

「佐川町の名所」を紹介する映像を制作した中3有志7人が、佐川町の名所を紹介している。映像には、佐川の歴史や文化、そして酒造りの歴史などが紹介されている。関係者は、映像を通じて佐川の魅力を広く伝えることを目指している。



「佐川町の名所」を紹介する映像を制作した佐川中のメンバー(佐川支所)

白壁 影絵で彩る

「佐川」の歴史や文化を伝える映像が、県内外で放映されている。映像には、佐川の歴史や文化、そして酒造りの歴史などが紹介されている。関係者は、映像を通じて佐川の魅力を広く伝えることを目指している。



「佐川」の歴史や文化を伝える映像が、県内外で放映されている。映像には、佐川の歴史や文化、そして酒造りの歴史などが紹介されている。関係者は、映像を通じて佐川の魅力を広く伝えることを目指している。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	26 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	住民参加による歴史的風致の維持向上 ○ 建造物・施設管理・活用を住民グループ・NPOに委託 ○ 住民と行政の協働により桜再生の具体的な取り組みを進める ○ 民族芸能の後継者育成のため、芸能関係者、地域住民、行政が連携を深め、加入促進の手立てをさらに進めていく。
計画に記載している課題	○ 町民有志やボランティアにより、老朽木や雑木の伐採、桜の苗の植樹等が行われているが、まだまだ十分とはいえる状況にない。 ○ 当町においては、特に農村部は高齢化及び過疎化の進行が著しい。地域の若者人口の減少は、地縁団体の活動の弱体化を招く。このことは、その地縁団体に活動の根をおく民族芸能の後継者不足に繋がってくる。
対応する進捗評価項目とその推移	③ 牧野公園の桜の再生に留まらず、佐川町出身の植物学者牧野富太郎博士に因んだ植物を、地域住民の協力を得ながら植栽を進めた。参加人数も延べ500人超(28年度)となり、住民交流の場として定着した。 ④ 歴史まちづくりに関わる住民組織NPO法人佐川くろがねの会や一般社団法人さかわ観光協会等が佐川文庫庫舎、旧浜口家住宅等を舞台にして、多彩な催しを展開した。 (ひな祭り、酒蔵ロード劇場、等) ④ 住民サークルが、牧野富太郎ふるさと館等において、各種教室をおこなった。(植物標本教室・草木染め教室・こけ玉教室・ミニ門松教室・植物画教室、等) ④ 平成25年度に設立された(社)さかわ観光協会が旧浜口家住宅、佐川文庫庫舎、牧野公園等の指定管理をおこなうと共に、重点区域内の各施設との連携のもと、観光客誘致のための取り組みをおこなった。 ④ 28年度整備完了した竹村分家旧竹村呉服店の使用者を公募し、地域住民が雑貨店を開設。店舗経営と併せて観光案内等を実施している。 ④ 伝統芸能のグループが小中学校生を対象に、芸能の伝承に取り組んだ。(四ツ白太刀踊・白倉花取踊・瑞応の盆踊、等) ④ 重点区域内の自主防災組織が防災訓練をおこなった。(年1回)
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	○ 旧浜口家住宅を(社)さかわ観光協会の事務所・喫茶休憩所として活用、竹村分家旧竹村呉服店の開業(雑貨店・喫茶)、また重点区域でのイベントも積極的に開催することで同地区への観光客が増加している。 (平成28年度 同地区入込客数 約22,000人) ○ 平成25年度中に策定した公園整備10カ年計画に基づき、ボランティアによる整備を継続的に実施。ボランティア参加人数約500人(延べ・平成28年度)。植栽した植物約300種。観光客も増加しており、今後ガイド養成を実施する予定。 ○ 伝統芸能の子供たちへの伝承が、徐々にではあるが功を奏してきている。町内の行事等にも参加し踊りを披露している。高校生まで続けているケースもあるが、そこから先は不透明で、伝統芸能としての価値を理解してもらい根付かせることが課題である。 ○ 住民組織NPO佐川くろがねの会は活発に活動を展開しており歴史まちづくりに貢献しているが、活動する者の偏りと高齢化が課題ではある。
達成状況の評価、要改善事項	■ 想定通り効果が発現している <input type="checkbox"/> 今後発現が予想される <input type="checkbox"/> 要対策検討 <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない 無形文化財の伝承を通じ、地域と学校の繋がりがより強固になり、保存会も自らの活動に対してより高い意識をもち活性化している。 (要改善事項) 今後は、より効果を上げるよう各活動組織の連携を推進していきたい。
計画見直しの必要性	■ 計画の見直しが不要 <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針) 次世代に文化遺産を伝えていくため、各学校とも調整のうえ、児童・生徒の地域のフィールドワークを行うなど、さらに効果的な展開を図りたい。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成26 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	文化資源の包括的な活用による歴史的風致の維持向上 ○ 佐川の風致に位置づけた各要素を包括的に利用するため青山文庫を核とし、連携を図る。 ○ 青山文庫を改修し、集客力を高めるとともに、佐川の歴史・人物に焦点を当てた展示を実施する。 ○ まちなみを歩くことで、貴重な資料に触れ、歴史的建造物を見、歴史
計画に記載している課題	○ 歴史的建造物、伝統芸能、歴史的人物といった町の文化資源の活用が、それぞれ単体としてはあっても相互に連携して行われることが少ない現状
対応する進捗評価項目とその推移	④佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・活用化事業が完了し、美術サークル展や、NPO法人のイベントで活用した。 ④青山文庫では耐震補強に併せて改修を行い、平成29年3月4日から始まった幕末維新博に併せて遺墨展を開催。 ④文化財の修理について……………該当事例無し
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	○ 佐川文庫庫舎を一般公開するとともに、美術サークル展やNPO法人の催事等に開放(H27 54日、H28 45日) ○ 青山文庫の利便性の向上(自動ドアの設置、トイレの改修)、佐川にちなんだ企画展の回数(H26 10回、H27 11回、H28 9回) ○ 竹村家住宅、佐川文庫庫舎、名教館、青源寺(庭園)等と青山文庫が一体となった街並み散策のルート化。(佐川文庫庫舎入館者数 27年度、8,812名 28年度、11,402名・名教館入館者数 27年度、10,224名 28年度、12,106名)
達成状況の評価、要改善事項	■想定通り効果が発現している <input type="checkbox"/> 今後発現が予想される <input type="checkbox"/> 要対策検討 <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない
計画見直しの必要性	<input type="checkbox"/> 計画の見直しが不要 <input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針) 区域内には歴史ある酒蔵や建造物が現存しており、今後は民間施設も含め、建造物の活用の充実を図るなど、さらに歴史的風致の維持、向上を充実する必要がある。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	26 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>教育・産業等との連携による歴史的風致の維持向上</p> <p>○次世代へ貴重な文化財を伝えるための学校教育・生涯学習の推進。</p> <p>○歴史的風土によって培われた食物や工芸品、芸能等を産業資源として活用することで付加価値化を図る。</p>
計画に記載している課題	<p>○当町においては、特に農村部は高齢化及び過疎化の進行が著しい。地域の若者人口の減少は、地縁団体の活動の弱体化を招く。このことは、その地縁団体に活動の根をおく民俗芸能の後継者不足に繋がってくる。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>④地域住民組織に於いて、佐川町出身の植物学者牧野富太郎博士に由来する植物の育生と、食用への研究を行うため、研修会を開催。また、博士由来の食べ物を集めた「牧野富太郎弁当」を販売した。</p> <p>④佐川町産木材を活用すべくデジタルファブリケーションツールを導入し、土産物開発に取り組み観光との連携を検討した。</p> <p>④文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について</p> <p>④文化財の保存及び活用の普及・啓発について</p> <p>上記両項目に対して、NPOによる勉強会、子どもを対象とした歴史教室が定期的に行われている。(年1回)</p>
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<p>○富太郎弁当をはじめ地域食材を活用した弁当を予約制ではあるがメニュー化し、観光客に提供している。(平成28年度 実績650食)</p> <p>○ 黒岩小学校では、「四ツ白太刀踊り」(県指定保護無形民俗文化財)、黒岩中学校では「瑞応盆踊り」(同)、斗賀野小学校で「花取り踊り」(町指定同)の指導を受け、地域行事や学校行事などで披露した。(平成28年度 計15回)</p>
達成状況の評価、要改善事項	<p><input type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 今後発現が予想される</p> <p><input type="checkbox"/> 要対策検討</p> <p><input type="checkbox"/> 現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
計画見直しの必要性	<p><input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが不要</p> <p><input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要</p> <p>(見直しの理由・方針)</p>

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成26年度～ 28年度
計画に記載している方針	<p>さらなる歴史的・文化的資源の発掘による歴史的風致の維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財の調査と把握を継続して実施し、活用方法や有効な保存方法を検討する。 ○住民参加のもと、教育委員会、文化財保護審議会、まちづくり行政の緊密な連携を構築し、新たな発見、再評価による付加価値化。
計画に記載している課題	<ul style="list-style-type: none"> ○佐川町にはまだ見出されていない文化資源が眠っている。 ○現状では、文化資源の掘り起こしに対する取り組みが十分とはいえず、また、その体制も整っていない。
対応する進捗評価項目とその推移	<p>④ 文化財の保存・活用に関わる住民、NPO等の連携は十分であるが、啓発についてはNPOが主催するイベントに偏っている。</p>
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育委員会事務局、文化財保護審議会による調査(年1回)、情報交換会(年4回)を定期的実施している。 ○ 文化財の再評価を行い、新たな文化財の発掘に向けて動いている。 ○ 文化財について見直しを行い佐川町の文化財冊子の作成を計画している。 ○ 関係機関とは必要あるごとに連絡、調整をもっている。(年4回程度)
達成状況の評価、要改善事項	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している <input type="checkbox"/> 今後発現が予想される ■ 要対策検討 <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない <p>文化財の調査を継続することはもとより、催しや学習会の実施などに固定化することなく、新たな展開を探っていく。</p>
計画見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 計画の見直しが不要 ■ 計画の見直しが必要 <p>(見直しの理由・方針)</p> <p>町並み散策やイベントなど関係団体による企画だけではなく、町内外より新たな手段や手法についても意見を求めていく。</p>

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成26 年度～ 28 年度
計画に記載している方針	<p>制度面の整備による歴史的風致の維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律の趣旨に則した新たな条例の制定または、既存条例の改正を行う。 ○ 景観法等に基づく新たな制度の導入を図ることとする。
計画に記載している課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建造物の新築、増改築、修景等は街並み景観条例により一定の規制が可能だが、時代に即応していない面もあり、制度面の整備も必要である。
対応する進捗評価項目とその推移	<ul style="list-style-type: none"> ② 平成29年度より景観計画の策定及び景観条例の制定に向けた取り組みを始めた。2～3年のスパンによる作業となると想定している。
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	<p>達成状況は、まだ取り組みを始めたばかりであり示すものはないが、対象区域(歴まち重点区域を予定)に規制がかかることが想定され、対象区域住民の合意を得る話し合いを重ねていかなければならないと考えている。</p>
達成状況の評価、要改善事項	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 想定通り効果が発現している <input checked="" type="checkbox"/> 今後発現が予想される <input type="checkbox"/> 要対策検討 <input type="checkbox"/> 現段階では判断できない
計画見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 計画の見直しが不要 <input type="checkbox"/> 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針)

評価対象年度 26 年度～ 28 年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み①:
竹村分家旧竹村呉服店修復・保存事業

(取り組み概要)

歴史的形成建造物指定予定である竹村分家旧竹村呉服店の寄贈を受け、東隣の国指定重要文化財竹村家住宅と一体的に歴史的風致を形成すべく、修復・保存整備を実施。1階部分使用者を公募し、雑貨販売兼喫茶店を開店。2階及び建物の一般公開をするとともに重点区域の観光案内も実施



改修前



改修後



改修後内部

(自己評価)

国指定重要文化財竹村家住宅の西隣に位置し、また分家ということで歴史的にも繋がりの深い家屋を修復することで、重点区域の歴史的風致維持に大いに資することができた。また、単に一般公開するだけでなく、店舗として活用することで、重点区域の賑わいを創出するとともに、観光、地域経済の振興にも大きく寄与することが出来た。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等): 吉野毅(佐川町歴史的風致維持向上計画協議会会長)

・外部評価実施日: 平成29年3月23日

・有識者コメント

竹村分家旧竹村呉服店は、国重文指定の竹村家住宅から安永6年(1777)に分家し、当初は質屋を営み、次第に呉服商へと商売を発展させ、その後三代目の頃には土佐国西部で唯一の絹物商として繁栄した歴史を持つ。その由緒ある建造物と敷地を、所有者の方が、佐川町の歴史的風致維持向上計画の取り組みに大変賛同され、平成26年に町に無償でお譲りくださった。このことは、当町の歴まち事業を飛躍的に展開させるきっかけとなった。

また、その修復・保存工事においては、歴史的建造物としての持ち味を損なわないために、極力使われている部材を活用すると共に現況の意匠を尊重して施工された。出来映えを見るにつけ、この事業のスタンスは良かったと思う。加えて、その活用も、おしゃれ雑貨店が入り、特に女性の人気を呼んでいる。また、店主の方も当町の歴まちに大変協力的であり、観光振興に貢献してくれている。

(今後の対応方針)

成功事例であり、今後はこの方向性を更に発展できるよう、行政支援をしていく。

評価対象年度 26 年度～ 28 年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み②:
牧野公園整備事業

(取り組み概要)

牧野富太郎博士の顕彰を図るため、歴史的風致形成建造物指定予定の牧野公園に遊歩道の整備と博士由来または縁の深い植物並びに秋期も楽しめる紅葉樹等を植栽し、憩いと学習の場として公共公益施設の高質化を実現のため、古い桜や雑木の伐採をおこない、リニューアルを進めてきた。

公園内通路の整備事業については、施工延長約800mの区間において、舗装及び排水路等の改修工事を実施することにより、公園の安全性・利便性を向上させることを目的としており、平成28年度に完了となった。



改修後の植栽作業

(自己評価)

平成26年度に着手し、平成28年度に完了となった「牧野公園道路改良工事」については、公園内通路の路面改修と排水機能を向上させるために、舗装の全面改修と排水路の新設を実施することとなった。

工事の実施にあたり、景観への配慮を基本計画とし、公園の植栽・利用計画との調整、打合せを十分に行うことができたことから、関係者及び利用者の意見を公園整備に十分に反映することができたと判断する。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等): 吉野毅(佐川町歴史的風致維持向上計画協議会会長)

・外部評価実施日: 平成29年3月23日

・有識者コメント

牧野公園は、佐川町出身の世界的植物学者牧野富太郎博士により贈られたソメイヨシノを植えたことを契機に、桜の名所として整備されてきた。幾度かの桜の老木化とその再生を繰り返しながら、現在も桜の再生事業に取り組んでいる。併せて、四季折々の牧野博士ゆかりの植物を楽しんでもらう公園とするために、住民ボランティアなどにより植栽活動がおこなわれている。そうしたことが徐々に実を結び、町並みと共に観光客の目を楽しませるスポットとなっている。

この牧野公園の中を蛇行する道路は、散策道でもあり車も往来できる道であるが、老朽化によりでこぼこができ、危険でもあり、かつ、景観上も良くなかった。そのため、この整備事業で緑色の美しい舗装になったことは、植栽活動と相まって公園の価値に磨きをかけるものになったと感じている。

(今後の対応方針)

メンテナンスを継続し、安全と景観を護っていく。

評価対象年度	28年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称:佐川町歴史的風致維持向上計画協議会	
会議等の開催日時:平成29年3月29日	
<p>(コメントの概要)</p> <p>委員A:有名な観光都市とは比べることはできないが、ここ3~4年で観光客がかなり増加しているように感じる。歴まちに取り組みだしてほぼ10年になるが、やっと花が咲き始めてきたような気がする。</p> <p>委員B:それだからこそ、大型バスがもっと駐まれる駐車場が欲しい。食事処が欲しい。</p> <p>委員C:ただ、重点区域は歩きだから良い面もある。あそこに大型バスが往来したら興ざめだ。そのため、駐車場は少し離れたところでもいいのでは。しかし、食事処はもっとあって欲しい。</p> <p>委員D:竹村分家旧竹村呉服店は非常に成功例となった。所有者が佐川町の歴まちに賛同して、町に無償譲渡いただいたのもありがたい話だが、その活用もうまくいった。おしゃれな雑貨店が入り、女性客が増えた。店の人も言っていたが、若い女性が増えたとのこと。</p> <p>委員E:影絵を酒蔵の白壁に映す「酒蔵ロード劇場」も実に良い。ロマンティックなイベントで、カップルや家族連れがお客さんに多い。知り合いから、文教の町らしいセンスのある催しですね、と言われた。</p> <p>委員F:特に県外からの観光客から、牧野公園が良かった、と言うのを聞く。牧野博士ゆかりの植物がさりげなく植えられていて、わざとらしくなく自然な感じが良い、とのこと。</p>	
<p>(今後の対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観光客に若い層が徐々に増えてきているのは、将来に希望が持てる現象であり、若者向けのイベントや宣材づくりに更に力を入れる。 ○ 2020オリンピックを控えて、外国人観光客の誘致に取り組む。 	